



No.21 2019.10.25

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

コミュニティ・スクール研修会を終えて

☆今、なぜ、コミュニティ・スクールなのか？

3回の研修に参加する中で改めてコミュニティ・スクールって何なんだろうと原点に戻って自分の考えを整理してみました。

コミュニティ・スクールを充実させていく必要性は2つあると考えています。

一つ目は、新しい教育システムの構築のためです。世代を越えて解決策を創造しなければならないほど、社会における課題が多様化・複雑化しており、物事を広い視野で捉え、様々な課題を切実に解決していく資質や能力を育むことが新学習指導要領で求められています。子どもたちにその素地を育てていくための教育システムを創っていかねばなりません。それが学校と社会が連携・協働して創っていく「社会に開かれた教育課程」だと考えます。「学校外部の視点」を大切にし、学校外部の人的・物的な資源をいかし、次世代を担う子どもたちに「社会を支え、未来を創っていく資質・能力」を育むための持続可能なカリキュラムを創造し、地域に根付かせるのがコミュニティ・スクールだと考えます。

二つ目は、自分自身の人生をより豊かにするためです。私がいわゆる老後を迎えるころ、社会は2040年問題真ただ中にあります。1.5人が高齢者1人を支える社会が来ると言われています。この事実は避けて通ることができず、まさに「自分事」として捉える必要があります。自分自身がその社会を生き抜くためには、自分自身に居場所があること共に学び、共に課題解決をする仕組みづくりをおこなっていくのもコミュニティ・スクールだと考えます。

このようにコミュニティ・スクールは学校と地域を結ぶ新たな時代の持続可能な社会全体の教育システムづくりだといえるのではと考えます。(文責：本所)

☆コミュニティ・スクールをすすめるにあたって？

コミュニティ・スクールをすすめるにあたって重要だと考えることは“方法に関わること”と“心情に関わること”があると考えています。

まず“方法に関わること”では、コミュニティ・スクールを進めていく当事者同士の考えや立場の違い、ズレをていねいに共有することが重要だと考えます。「教員のイメージ」「地域の方のイメージ」「保護者の方のイメージ」など、私たちは潜在的な意識が働き、その意識が時にはマイナスの方向に働いてしまうことがあると捉えています。他者と協働して一つの目標に向かっていくためには、違いやズレを感じたときには立ち止まり、一つずつ解消していく必要があるのではないのでしょうか。



次に“心情に関わること”として大切なことは、互いに尊敬の念を抱くことだと思います。しかし、尊敬の念を抱くという心情は意識してもつものではなく、自然と芽生えるものだと思います。前述した、考えや立場の違い、ズレを共有する中で自然に芽生えてくるのではないのでしょうか。互いに尊敬の念を抱くと、目標に向かうための活動において、遠慮や謙遜を越えた役割分担がなされ、より強固な組織としてコミュニティ・スクールの運営が可能になると考えます。

こうした“2つに関わるのが熟議だと考えます。(文責：本所)

☆熟議とは？

特に私たち教員は、児童・生徒に多様な他者とのかかわりを期待し、「協働的な学び」、「異質なものへの理解」、など求める一方で、教員自身は教員以外の方と議論する機会は乏しいのが実情です。研究会や意見交流会においても多くの場合、同じ教員つまり「同業者」との議論にとどまってしまう。そこでの議論が成立する前提として、「同じ児童・生徒を知っている」、「同じ教科等を指導している」、「同じ校種を経験している」というような多くの共通体験や共通認識があります。しかし、地域の方をはじめ、多様な他者とかかかわるとそれらの前提はすべてなくなり、相手に理解を求めることは大変困難になります。

だからこそ「熟議」が効果的だと考えます。私たちの前提を見直したり、そもそもの目的や目標に立ち戻ったりすることを通して、物事の本質に迫ることができると思います。教員と保護者、教員と地域の方、保護者と地域の方など、互いの考えや立場には違いやズレが多くあり、熟議しなくとも違いやズレがあること自体は理解していると思われる。しかし、どこが違うのか、何がズレているのかを自覚し、互いに共有し「納得できる」ことが、熟議の価値だと考えます。相手の言葉の背景にあるものに気付き、相手の考えの根底にあることに目を向けようとしたりすることが「協働的な学び」や「異質なものへの理解」へとつながると考えます。

こうした熟議を繰り返す中で“社会に開く”ということがはじめてわかってくるのではないかと考えます。(文責：本所)



～社会に開く～

ラグビーワールドカップで残念ながら日本代表が負けてしまいましたが、日本代表から様々なことを学ばせていただいたように思います。様々な国籍の選手が日本代表として“ONE TEAM”をテーマにそれぞれの文化を認め、理解し、考えのズレを解消しながら目標に向けての個々のベクトルをそろえ、戦略をたて、ゲームプランをもってゲームに臨んでいく。まさしくこれはコミュニティ・スクールのあり方ではと刺激を受けました。

また、10月18日に放送されたNHKのドキュメント72時間「東京永田町 シェアオフィス」ではカフェのようなお洒落なレンタルオフィスで、フリーランスや新たにビジネスを始める人のオフィスとして、また、企業で新しい企画を練る会議スペースとして利用するなど、様々な立場の人が自分らしい働き方を模索している3日間のドキュメンタリーでした。その中でシェアオフィスを利用する人のベースには「社会に開く」というキーワードがあるのかなと思いました。民間企業やフリーランスで働く人が様々な人と交流ができるスペースで仕事をすることによって自分の視野を広げ刺激を受け、クリエイティブになろうとしている姿、学校にとってコミュニティ・スクールがシェアオフィスなのではと思いました。10月26日(土)午前11時25分より再放送があります。これからの教育のあり方を考えるという視点でみると面白いのではと思います。よろしければご覧ください。(文責：北本)